

第1回江田島市環境審議会 要点録

◎概要

日 時	令和3年8月10日(火) 14時～15時35分				
場 所	江田島市役所 4階 403会議室				
委 員 (敬称略)	団体名	役職等	氏名	出席	備考
	江田島市公衆衛生推進協議会	会長	沖井 遵文	○	会長 副会長
	江田島市自治会連合会	監事	伊勢木 武	○	
	江田島市商工会	会長	平田 圭司	—	
	江田島市農業委員会	会長	小原 正清	○	
	江田島市女性会連合会	会長	宇根 民子	○	
	江田島市PTA連合会	会長	山下 正夫	—	
	江田島市漁業振興協議会	会長	久保河内鎮孝	○	
	江田島市観光協会	事務局次長	岸 雅基	○	
	江田島市污水施設維持管理組合	代表理事	清水 義昭	○	
	一般社団法人フウド	代表理事	後藤 峻	—	
	永田川カエル倶楽部	会員	藤原 陽子	○	
	広島修道大学人間環境学部	教授	羅 星仁	○	
	広島県西部厚生環境事務所	参事	上堀 慎也	○	
	大柿自然環境体験学習交流館	館長	西原 直久	代理	
	江田島市市民生活部	部長	江郷 壱行	○	
事務局	江田島市地域支援課	課長	猪垣 英治	○	
		課長補佐	才野 勲	○	
		係長	本家 元且	○	
		主任	木多 淳二	○	
コンサル	(株)ジャパンインターナショナル 総合研究所	まちづくり プランナー	國田 明彦	○	
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会長・副会長の選出について 会長に沖井委員，副会長に伊勢木委員が選出されました。</p> <p>5 諮問 明岳市長から諮問書が沖井会長に手渡されました。</p> <p>6. 議題 (1)第2次江田島市環境基本計画の策定について 資料1により説明 (2)アンケート調査について 資料2により説明</p> <p>委員 2ページ回収結果について，回収率をどのように評価されているのか。</p> <p>会長 回収率は，他のアンケートと比較してどうなのか。</p>				

事務局

市民アンケートの回収率は 35.7%。近年のアンケートでは3～4割程度の回答が通常です。環境に関する問題が世間で当たり前になってきたことや、市からのアンケート調査が増えすぎていることもあると感じています。

事業所アンケートの回収率 27.8%は低いという印象です。多くが個人事業主であることから、直接的な環境への取組みをされていないこと、新型コロナウイルス感染症拡大で厳しい企業もたくさんある中で、環境の取組みはと聞かれても答えていただけなかったのではないかと思います。

委員

パブリックコメントを募集してもあまり意見が返ってこないことが想定される。市でこういう取組みをやっていると周知していかないと、勝手に市役所がやっているという認識になってしまう。

会長

アンケートの回収率が低いということは、数字だけ見れば環境に対する関心が低いと捉えられるので、広報も検討せざるを得ないと思う。

委員

インターネットや SNS で情報を得ているというアンケート結果が出ている。アンケートを紙媒体ではなく、インターネットを活用するとか、ホームページ等を作って情報を発信することが必要ではないかと思う。

事務局

パブリックコメントを実施しても、意見があまり返ってこないことはよく聞きます。計画を策定していることを周知し、皆さんと一緒に計画を作っていると思われるような方法を考えていきたいと思います。

インターネットを使ってアンケートを行っているところもありますが、ほとんどの場合、紙との併用となっています。無作為にアンケートを取る場合には、どうしても郵送等でお知らせをする必要があると思います。

広報等の手法は検討します。

会長

50 ページ、教職員への設問「問8 あなたが授業や学校活動での環境教育で、課題に感じていることは何ですか。」で、適切な教材が準備できない割合が高い。どういう取組みをしているのか、どういう教材があるのか、調べているか。

事務局

今は、そこまで調べていません。

会長

57 ページ「問2 住んでいるところや学校の周りの環境に関する下記の項目についていいと思うこと」で、「生物多様性」が非常に高いのは、さとうみ科学館の利用が影響しているのではないかと思うが、どのくらいの利用があるのか。

委員

江田島市内に限らず、市外の学校からも来館されている。海の生き物に関する交流や海に行き行って観察をしている。県のレッドデータブックで特に海産無脊椎動物に関してリストアップされる絶滅危惧種のほとんどが、市内の海で見ることができる。そのく

らい生物の多様性が高いということも、子どもたちに伝えるようにしている。

会長

それは、市内の小学生全員が対象なのか。また、他の地域と比べて、生物多様性について、いいと思うことの率は高いのか。

委員

市内の全ての小学5年生が海に出て授業を受けているので、機会は全員にある。

事務局

「空気がきれい」、「水がきれい」、「生物多様性」については、国の指導要領に入っているため、高いところが多いです。江田島市は、海があり、山があつて色々な体験ができますが、他の市町でもたんぼや山林を利用して色々な取組みをされているので、特別に高いわけではありません。

(3)計画骨子(案)について

資料3により説明

委員

耕作放棄地が増え、そこに太陽光発電パネルが設置されている。施設は良い条件の農地にできるので、良いところの農地がなくなっているが、放っておけばそこは荒れて見た目にも良くない。そういう状況を見て、断腸の思いで農地転用の許可を出している。

農業者が減り、高齢化し、耕作放棄地が増えているという中で、環境面から見て、自然に戻るのだから良いという見方も一方ではある。美しい島として、本当に良いのかと悩んでいる。

この島だけでなく全国でも高齢化が進んで、どの地域も同じ状況にある。「自然環境の保全」というワードの中で、そういう部分は、この基本計画の中でどう踏み込むのか気になる。

事務局

難しい問題と思います。参考資料として、国と県のパンフレットを配布していますが、環境省の計画では「地域環境共生圏」を目指しています。農山漁村と都市部が資源や人、エネルギーを循環して良い関係を保つということですが、ここでいう環境は、人を取り巻く環境ということが一番の課題になっています。

人が開発したところが自然に戻ってしまうのは、環境保全とは違うと思います。人の生活圏と自然とが共生をする社会を目指そうということになっています。

例えば、広い農地の中に耕作放棄地が点々とできる場合、放棄地の周りに病気や害虫が出ると地域全体の環境が悪くなっていきます。全くの自然と人が手を入れた自然は違って、人が管理しないといけないものがあります。どういう取組みができるか地域ごとに考えてもらうのが、この計画になるのではないかと思います。

委員

骨子案の14ページ「事業者の役割」に農林水産業が入ることになるのか。

事務局

13ページ「自然と人が仲良く共生するしま」で、環境保全、生態系を大切にするとすると、景観、公園緑地など人が手を入れなければいけないところ、これらに関するということに入っています。産業に関してはここの全部に係るので、市民も事業者も役割を持つと思っています。

会長

骨子案 10 ページの分析評価, 「自然と人が仲良く共生するしま」で, 達成状況が全部二重丸になっている。放置しても二重丸になる。自然を保護するという事は, 何もしないことではなく, 何か働きかけないと自然環境を維持できないところがある。このあたりの分析もきっちりしておかないといけないと思う。

委員

骨子案 1 ページの「国際社会及び国内の動向」に「1 地球温暖化対策・低炭素社会」, 「2 海洋プラスチック問題への取組」, 「3 持続可能な開発目標(SDGs)」とあって, SDGs が一番幅広いので順番を考えていただきたい。また, この3つを取り上げる理由がよくわからない。

これを基本計画の重点なテーマにするつもりなのか, 世界的な話題になっているのでこれを入れているのか。10 年間, この3つがずっと話題になるかというところでもないで, 慎重に取り上げないといけないと思う。

計画の全体として SDGs の位置づけがよくわからない。最初にちょっと出て, アンケートでもしているが, 17 の項目で「何が一番重要だと思いますか」で, 終わっている。

今は SDGs の時代なので, SDGs を前面に出すのなら, 文章全体を通して SDGs がどういう位置づけなのかを明確にするべきと思う。10 年前に, この計画を作る時には一番大変だったのが, 重点プロジェクトであった。空き家の問題もあり, 江田島市の場合には人口減少がひどいため, 江田島市民に本当に緊急かつ必要な重点プロジェクトをここに入れられないといけない。

そこに予算をつけて 10 年間, 計画的に実施するのが重点プロジェクトの本来のあり方である。

アンケート結果がとてもおもしろいと思った。小学生のアンケート結果と一般市民の結果が真逆である。生物多様性について一般市民は低く関心がなく, 小学生が一番高い。SDGs から見ると世代間のギャップがある。

年配の方は, 生物多様性を昔からずっと見てきたので, その大切さがよくわからないけれど, 小さい子どもは, これからどんどんなくなっていくということを学校で教えてもらう。

60~70 年後にそれが見られないと言われると大事だと思う。そのギャップも, アンケートをどう活用するかがあまり見えてこない。アンケートよりも, 江田島市くらいの規模だと, ヒアリング調査の方が効果があると思う。環境保全に関わっている方にヒアリングをして, 一番必要なプロジェクトは何かなど, その視点を活用して, 重点プロジェクトに力を入れて, 10 年間で効果を上げるような計画策定ができればよい。

会長

私たちの年代は SDGs とは何か調べるところから始まって, 小・中学生のほうがよく知っている。世代間で大きな違いが出ることも課題だと思う。そこを踏まえてもう一度検討していくことでお願いしたい。

事務局

御意見を踏まえて検討します。

委員

重点プロジェクトの「きれいな海を育むためのプラスチックごみ流出防止の推進」は, 一番の懸案事項だと思う。私たちが取り組んでいる実態を, 次回の審議会で説明させてもらいたい。

委員

環境問題は大きな問題だから, どうしても絵に描いた餅みたいな取りまとめになら

ざるを得ないと思う。市民感情から言うと、この江田島市に人が住めるような持続性が本当にあるのかどうか、地域によっては住みにくいコミュニティが出てくるかもしれない。

一斉清掃を取ってみても、あと10年か15年したら、今までのように展開できるかどうかという感じがする。高齢化して、共同でやっていたところが、年1～2回できるかというところに現実はきている。

こういうことを考えると、市民感情としては、この江田島市で環境問題として、どこに焦点を絞って取り組む課題にするのか。毎年の変化としてどういう環境の前進が見られたかは、チェックさえできてない。

農業の問題は、環境の破壊に近い。米を作る田んぼは10～20年も前から維持できていないので、米を作れる田んぼは今ほとんどない。

2千人住んでいる地域で5軒くらいしか米を作っていない。畑はほとんど山に戻っている。

環境問題について、どういう捉え方で、課題としてやったら良いのか、一市民として言いにくい。

ごみ問題は市民の関心が強い。分別を含めて年とともに良くなっているのか、悪くなっているのか、市民が毎日関係しているので教えてもらえばいい。

江田島市での環境問題は、どういうところに焦点を絞って関心を持ってもらえる環境基本計画にしていくか、本気で論議したほうがいいと思う。

会長

一番大きな課題は人口減少ではないかと思う。その中でごみの問題も環境保全の問題もはっきりしてくる。持続可能なまちづくりといいながらも人口が減ってきて、それ以上に、個人個人が地域の中の責任を分担しなければいけないけれど、そこまで基本計画に盛り込むには莫大な労力が必要になる。

基本計画は一番基本的な大まかなところを決め、さらには、それをもとにして地域や団体でどうやっていくのか、そういう進め方だと理解している。今、出たご意見を合わせて、次回までに整理をしていただければと思う。

7. その他

8. 閉会